

自己評価結果公表シート

本園の教育目標

キリスト教信仰に基づき、幼児一人ひとりを大切に親と子の育ちの場となるよう努めるものとする。
(施設の目的及び運営方針)

第2条 この幼稚園は、幼稚園型認定こども園であって、「日本基督教団信仰告白」に言い表されたキリスト教信仰に基づき、学校教育法第22条及び第23条に基づき幼児を保育し、適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする。

2 本園は、社会の期待や願いに応えられる創意と活力のある保育活動をすすめ、園児・保護者・地域に信頼されるよう努めるものとする。

3 本園は、安心・安定した情緒と落ち着いた保育環境の中で、健やかに豊かな心と体が育つよう保育を行うものとする。

4 本園は、子育て支援と対話・相談を大切にし、親と子の育ちの場となるよう努めるものとする。

神様の守りと導きの中で、自らも子ども達から学び、共に生かされていることを喜び祈りをもって行う。子ども一人ひとりに対して丁寧に対応し成長を願う。縦割構成の保育には高度な配慮と保育者の資質が求められるので、保育が自己満足・マンネリ化に陥らぬように日々の実践を通して常に見直すように努める。

1. 本園の保育の再確認

ア. 毎朝聖書を読み教育理念・方針、キリスト教に基づく保育について学び、園長を中心に教職員で話し合っって作成した「年間指導計画」に従って毎日祈りつつ保育を行った。保育計画も朝と保育後の教師会で教師全体で話し合い、子ども一人ひとりに配慮した保育計画を立て実践した。しかし、月案・週案での活動内容や子どもの動きなどの記録は部屋ごとに個人で作成したため、個人記録にとどまってしまうので、毎週行われる教師会では園全体の記録として残すことができなかった。このことは反省すべきことである。

イ. 子どもも保育者もクラスの枠を越えた異年齢の幼児が生活する縦割・自由保育の中で、子ども一人ひとりに対して丁寧な対応ができた。また、子ども同士で問題解決出来るように保育者が必要に応じて間に入り、時間をかけて互いの心を大切に受け止めあうための話し合いの時を持った。全園児一人ひとりに対して、保育者全員で共通理解を持って子ども達にかかわった。子ども達は、互いに学び合い協力し合い競争し合い切磋琢磨しながら成長し合ったが、保育者は保育がマンネリ化しないように常に子どもの実態や周囲の状況の変化に対応するよう務めた。各年齢ごとに体験することが好ましい活動も取り入れ、発達段階に応じた遊具や用具・素材・活動内容等の研究を絶えず行う必要がある。子どものみとりの学びは園内研修にとどまらず、外部研修、書物による学びも行ったが、学ぶだけでなく、子どもの実態に応じた活動の取入れを発信していけるようにすることが求められている。

・今年も満2歳児の認定外子どもを受け入れている。2歳児教育(保育)クローバーの部屋では、個人差が大きく、育ちの葛藤をくぐり抜けて自立の芽生えが育つ成長過程の子ども一人ひとりに対して

より添った丁寧な保育が行われた。また、子どもたちの育ちや興味と鑑みた「ゆたかな活動」を中心にすえ、子ども一人ひとりの自己肯定感・友だちと一緒の心地よさの体感・遊ぶ力の育成に努めた。

ウ．学期ごとに保護者会を行い、ご意見を聞かせていただいたり園の方針、行事について具体的に子どもの姿を通してご理解いただいた。

2. 園の施設、設備、遊具等の安全点検、施設設備の総点検

ア．子ども達の成長に必要と思われるブロック、絵本等を購入した。

イ．火災による避難訓練だけではなく、大規模地震を想定した訓練をした。

・一時避難生活を見込んで必需品の水・非常食を設置した。

ウ．長野も30度を越える真夏日が多くなり、昼寝をする一階ホールが暑く熱中症が心配されるようになったので冷房機器の設置をした。

(※二階の礼拝堂のスペースの利用の検討を(運動的活動を取入れ運動力を高める方向で))

3. 子育て支援、家庭支援体制の再構築

子育て支援として行っている「こひつじ広場」を、教育的効果を考えて満1歳～2歳、2歳～就園前と2グループに分けて内容を充実させて保育を行ったので、その効果を大きく見ることができた。

4. 保育者の質の向上、研修の充実

教師間の話し合い、研修会に積極的に出席し学んだことを伝達し取り組むようにした。講師の元小学校校長、小野晃男先生の協力により、こどもの動きを前面に据えた園内研修を充実させた。副担任は昨年度に引き続き担任から自主的に学びながら、保育の在り方を自分のものにしつつある。「保育」の質の向上を図るために「幼稚園教育要領」を読みあい研鑽を重ねた。

5. 小学校との接続期の保育・幼小連携のあり方の再確認

卒園児が進学する小学校での幼保小連絡会に本園から必ず出席している。指導要録抄本を提出している。進学する小学校に入学する前に、園での姿や様子を観ていただく必要があると思われる園児に対しては、来園してもらい園長、主任、担任が面談し理解を深める機会をもった。

また、卒園後も小学校からの問い合わせに対して園長と卒園児の元担任が学校を訪問し、園での様子や本児に対する見方、対応をお話して理解を図った。